

科目名	専門演習Ⅲ Seminar III						
科目担当者	村田 治彦 MURATA Haruhiko						
単位数	4	配当年次	4 年	授業形態	演習	開講学期	通年
履修学部・学科 [区分] 他学部他学科履修	法学部・法律学科 [専門教育科目 演習] 他学部他学科履修×					ディプロマポリシーとの関連	(3)(4)
授業の概要	演習Ⅰ・Ⅱで報告した事例を下に、授業計画に従って、各自で作成する。 指導は適宜必要があれば呼び出すが、基本的には電子メールのやりとりを通じて、添削を通じて行う。						
授業の到達目標	①視点・問題意識をもって、テーマを選択し、到達点を明らかにする。 ②先行研究を収集し、卒論作成の計画を立て、独自の見解に基づいて考察を行う。 ③電子メールを通じての添削、中間発表等による質問・意見を反映させる。 ④論理的に考える能力に基づいて、学術論文の形式を踏まえて作成する。						
授業計画・内容	1	オリエンテーションー卒業論文とは？			16	論文を書く 2	
	2	仮テーマの選択・提出			17	論文を書く 3	
	3	資料収集 1			18	論文を書く 4	
	4	資料収集 2			19	論文を書く 5	
	5	参考文献リストの作成方法			20	論文を書く 6	
	6	文献の読み込み 1			21	中間発表 1	
	7	文献の読み込み 2			22	中間発表 2	
	8	文献の読み込み 3			23	中間発表 3	
	9	文献ノートの作成 1			24	中間発表 4	
	10	文献ノートの作成 2			25	論文を仕上げる 1	
	11	文献ノートの作成 3			26	論文を仕上げる 2	
	12	アイデアノート			27	論文を仕上げる 3	
	13	仮目次の作成			28	論文を仕上げる 4	
	14	仮テーマから題名へ			29	論文を仕上げる 5	
	15	論文を書く 1			30	卒業論文完成・提出	
授業外学修 (事前学修)	事前学習として、執筆計画を立て、資料収集、資料の読み込み、文献ノート・アイデアノートの作成、論文構成の手順を経て、章や節の書ける部分から書いていき、下書きとして書き上がったところについては、事後学習として中間発表をし、質疑応答を通じ、足りない点を踏まえ、添削を受けることに尽きる（毎回 120 分）。						
授業外学修 (事後学修)	専門演習Ⅰ・Ⅱで学んだ民事訴訟手続を題材に卒業論文を作成し、提出する。 何を扱うか、テーマが決まったら、足りない資料を集め、読み、先行研究をまとめ、文献ノート・アイデアノートをつくり、執筆目的を踏まえて、論文全体の構成を立てる。そして、本論の書きやすいところから埋めていき、序論・結論を加えて、下書きをつくる。最後に、下書きを校正して、完成する。 独創的な新しい考え方を提示するよりも、先行研究を踏まえて、取り上げた裁判例を通じた、紛争解決規範について、どのような考えが背景にあるかを整理して、理解を説明できることである（毎回 120 分）。						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率		到達目標との対応
	参考資料を収集する				10%		①
	論文計画を立て、準備する				10%		①、②
	下書きを作成し、添削を受ける				20%		①、②、③
	論文を仕上げる				60%		①、②、④
成績評価基準	秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合						
教科書	特になし						
参考文献	井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法（第3版）』（慶應義塾大学出版会・2022）						
その他							